

自然科学のとびら

Newsletter of the Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

Vol. 18, No. 4

神奈川県立生命の星・地球博物館

Dec., 2012



神山山腹の奇妙な地形

知られざる噴火の形跡？

2012 年 9 月

足柄下郡箱根町強羅

勝山輝男 撮影

かつやまてるお
勝山輝男 (学芸員)
やましたひろゆき
山下浩之 (学芸員)

箱根火山は約 40 万年前から活動を開始し、3,000 年前の冠ヶ岳^{かんむりがたけ}の噴火が最後の活動とされてきました。最近、神山から大涌谷周辺の地質調査により、冠ヶ岳の活動よりも新しい、小規模の噴火の形跡がいくつか見つかりました。マグマを噴出するような噴火ではありませんが、水蒸気爆発が約 3,000 年前と約 2,000 年、12 世紀後半から 13 世紀にあったと考えられています。

これとは別に、神山の山腹にはあたかも噴火口のような形をした、凹状の地形がいくつか見られます。その中でも、早雲山の近くにあるくぼみ地形は、浸食な

どによりつくられた地形とは思えない、きれいな円形をしています。このくぼみは早雲山ピットクレーターと呼ばれ、あたかも水蒸気爆発の火口のように思われますが、詳細はまだわかっていません。

早雲山ピットクレーターは航空写真で見ると、円形をしているのですが、地上では樹林に囲まれていてどこにあるのか見当が付きません。地図であたりをつけて樹林内に分け入ると、急な崖にぶつかりました。どうやらこれがピットクレーターのようなのです。このクレーターが遠望できる場所を探して、ヤブをかきわけ、^{かんぼく}灌木の間から撮ったのがこの写真です。